

わがまちづくり 交付団体の 活動を紹介します

町では、自由な発想のもとで住民自ら考え、自発的に地域活性化に取り組む団体や自治会等に対して、その活動を支援する「岩美町わがまちづくり交付金」の制度を平成16年から設けています。

今回は、小田川・荒金川に魚を蘇らせる活動を通して、川を護り、地域のつながりを深めていくことを目指す「小田川・荒金川に魚を蘇らせる会」の皆さんです。

小田川・荒金川に魚を蘇らせる事業

小田川・荒金川に 魚を蘇らせる会

地域を流れる川を魚が泳ぎ回る川、住民と親しめる川にしたいと、いろいろな活動に取り組んでいます。

小田川・荒金川は、上流の荒金鉾山から出る強い酸性の廃水によって、長い間（昭和10年ごろから40年頃まで）、魚が1匹も棲まない川でした。

鉾山が操業を止めてからも廃水は出ています。

これを何とかしようと、多くの関係者の大変な努力によって鉾山廃水処理施設が順次整備され、水質も徐々に改善してきました。

昭和50年代には川に魚が見られるようになりました。

平成9年に初めて鮭の遡上が確認されました。



こんな大きな魚が遡上して、産卵しようと思うほどきれいになっ

てきたこと
に対して、
地区住民は
大きな感動
を覚えまし
た。

小田川・
荒金川に魚



を蘇らせる会も、この年、誕生しました。

会では、毎年夏に川の中を歩いて川の様子や棲んでいる魚を確認したり、ごみを拾ったりしています。

少しずつ増えてきた魚を、投網などで捕らないよう訴える看板も、12箇所に設置しています。

11月になると、さけの遡上が始まります。今年は何れくらいの数の鮭が戻ってくるのか、楽しみにしています。

毎年11月20日過ぎには観察会を開催して、遡上の様子をみんなで確認しています。

12月に入ると、鮭の飼育を始めます。天神川

漁業協同組合から

発眼卵（受精させ



眼が確認できる程
度に成長したもの
の）を譲り受け、
会員を中心に約70

名、10団体（町内各小学校など）で取り組んでいます。

鮭たちは、孵化して、えさを食べ、5〜8センチくらいまで成長し、3月の中旬には放流の時期を迎えます。

川から海に出たあと、アラスカ湾やアリューシャン列島の北の海で大きくたくましく育つて、4年後には間違いないで故郷の小田川へ帰って来ます。

数々の危険をくぐり抜けて、帰還する割合は1%以下といわれています。

産卵したあと、一生を終えます。

私たちは、次の年は今年より1尾でも多く無事に小田川へ帰ってくることを祈りながら、毎年、6,000尾余りの稚魚を放流しています。

あなたも、一緒に飼育して、鮭の生態の不思議に触れてみませんか。

